

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 10 日

所属	商経学部	職名	准教授	氏 名	安藤 崇
研究課題	環境マネジメント・コントロール・システムの新たな展開に関する研究				
研究キーワード	環境マネジメント・コントロール（・システム）	当年度計画に対する達成度	1.目標を超える研究の進展・成果を達成した		
関連するSDGs項目	8. 働きがいも経済成長も	12. つくる責任 つかう責任	13. 気候変動に具体的な対策を	17. パートナリーシップで目標を達成しよう	

1. 研究成果の概要

今年度は、環境マネジメント・コントロールの本質を明らかにし、今後の研究課題を明らかにすることを目的とした。環境マネジメント・コントロール・システムとは、企業の社会・環境への取り組みを管理会計システムに組み込むための仕組みである。一般に、マネジメント・コントロールの究極的な目的は、目標の斉合性を高めることである（ドラッカー1954 等）。そこで本研究では、環境マネジメント・コントロールにおける目標斉合性（以下、「環境目標斉合性」）の特徴を明らかにするために、事例分析を行った。事例研究の対象は、日本の社会環境経営の最先端を展開するキリンホールディングス株式会社である。結果として環境目標斉合性概念は、通常概念を①外部環境軸、②時間軸、③組織構造軸の 3 つの軸に拡張・強化する特徴を持つことを明らかにした。今後の研究課題としては、企業内外におけるコミュニケーションという最終段階の実践をさらに分析していくことが重要であることが明らかとなった。

2. 著書・論文・学会発表等

（できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

なし。

【著書・論文（査読なし）】

Ando,T. Investigating the concept of “goal congruence” suited for the modern corporate environment - Expansion and strengthening in the environment, time, and organisational structure axes-,*Melco Management Accounting Research Discussion Paper Series*.2023.9.

【学会発表等】

Ando,T. The Essence of Environmental Management Control and an Agenda for Future Research, Management Control Association 12th International Management Control Conference, Durham University Business School, U.K. 2023.6

3. 主な経費

図書・論文の購入費、文具費や資料のコピー代

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

総合研究所の競争資金の獲得（2024 年度）

（本文は2ページ以内にまとめること）